1999. 11. 7号

NEVER…

編集：五味亜矢子、藤原夕、飯嶋玲子

11／7(日)　1部－2部入替戦

13:00 KICK OFF

慶應義塾大学
（1部リーグ8位）

VS

東京農業大学
（2部リーグ1位）

15:00 KICK OFF

明治大学
（1部リーグ7位）

VS

日本体育大学
（2部リーグ2位）

入替決定方法

慶應義塾（1部8位）VS東農大（2部1位）
【慶應義塾の勝ち】
慶應義塾は1部、東農大は2部に残留
【東農大の勝ち】
慶應義塾は3年振りの2部降格
東農大は16年振りの1部昇格
【引き分け】再試合（日時、会場とも未定）
【再試合・再度引き分け】それぞれ残留

明治大（1部7位）VS日体大（2部2位）
【明治大の勝ち】
明治大は1部、日体大は2部に残留
【日体大の勝ち】
明治大は6年振りの2部降格
日体大は2年振りの1部昇格
【引き分け】それぞれ残留

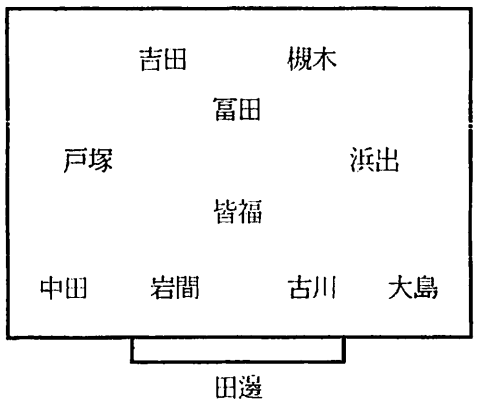
今リーグも、慶應大にとっては苦しいシーズンとなった。開幕戦では、押されながらも順天大を２－０で完封。勢いに乗るかと思われたが、次節の国士戦で１－５の大敗。７試合を通して、コンスタントに力を発揮できなかった印象が強い。１試合の中でも、チャンスは作れるものの、“あと１点”につなげられないことが多かった。中盤が間延びして高い位置でボールを奪えなくなると、攻撃への切替えが遅くなり反撃を食らう。故障者を抱えて、常にベストメンバーを組めなかったことが原因のひとつではあるが。

しかし反面、成果もたくさんあった。ＦＷ槻木、ＳＢの中田やＭＦ渡辺の１年生が、随所に質の高いプレーを見せ、チーム力の底上げを果たした。面白い戦力の台頭も。４年ながらリーグ戦初出場のＭＦ大類は、ＦＫから１得点を挙げるなどチームを鼓舞する活躍。途中出場のＦＷ玉田やＭＦ吉峯のリズムを変える懸命な働きは、戦い方のバリエーションを増やすことにつながった。レギュラーの４年生たちが、ここぞという時に見せた勝負強さも明るい材料だ。どのポジションでもチャンスに絡む冨田、戸塚のスピードを活かした突破から技アリのシュートは、この入替戦でも見所となるだろう。

１部で戦う地力は着実につけている。誤算といえば、２勝をあげながらの最下位というところか。一発勝負の入替戦は、いわばジャンケンのようなもの。チームとして統一された“考え方”が勝負の鍵を握る。たとえば点の取り合いをするのか、粘り強く１点勝負に持ち込むのか…常に状況判断が問われる。追われる立場とはなるが、焦らず試合の主導権を握りたい。

慶應義塾大学

＊最近４年間の成績＊
'96　２部リーグ４位（３勝３敗１分）
'97　２部リーグ２位（４勝２敗１分）
　➡入替戦 VS 早稲田大
　　１－０で勝利し１部昇格
'98　１部リーグ７位（２勝４敗１分）
　➡入替戦 VS 日大
　　１－１の引き分けで残留
'99　１部リーグ８位（２勝５敗）
　➡入替戦 VS 東農大



慶應義塾大学　ＶＳ　東京農業大学

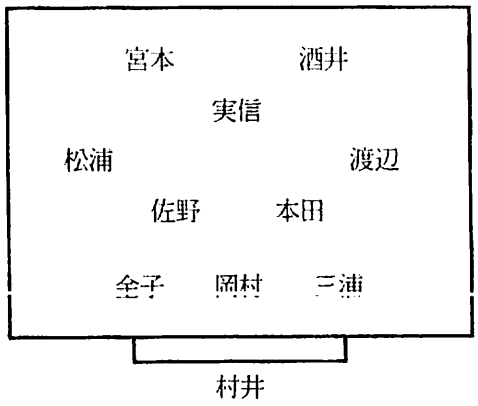
昨季の成績は２部最下位。去年の今頃は、都県代表の拓殖大と入替戦を戦っていた東京農業大学。だが関東リーグ残留をかけた戦いは、同時に「今年の東農大のスタートだった」（山下監督）という。

その言葉通り、今年の東農大は昨年と大きく違うチームに生まれ変わった。システムの変更や１年生の大胆な起用もさることながら、一番の相違点は攻撃力の高さだ。昨年、一昨年はとにかくゴールの奪えない試合が続いたが、今年は第１節の日大戦から４ゴールをあげる好スタート。２節では日体大に敗れるものの、３節から５節まではすべて３点差以上のスコアで順調に連勝を伸ばした。７試合19得点は、１部２部あわせて今季の最高得点だ。その高い攻撃力の起点となるのが、岡村、金子、三浦によるフラットな３バック。さらに中盤には佐野、渡辺、松浦、実信の１年生４人を起用している。中盤唯一の３年生、本田はボランチながら攻撃面での貢献度も大きい。いずれの選手も「攻撃のイメージがある」（酒井）だけに、酒井、宮本という“速い”２トップを活かす展開を多彩に演出できる。

対戦相手の慶應とは何かと縁がある。1995年、自力で２位内を決められなかった東農大が入替戦に出場できたのは、最終戦で慶應が負けたためだった。逆に２年前は、最終戦を６点差以上で勝たなければ入替戦に出場できない慶應が、東農大に７－１で勝利、そのまま１部に昇格して現在に至っている。リーグ開幕前、何人かの４年生は「戦ってみたい相手」という問いに「入替戦で慶應と」と即答している。そういう意味でも、相手にとって不足はない。あとは、昨年から築きあげた“攻撃力”をどう結実させるかだ。

東京農業大学

＊最近４年間の成績＊
'96　２部リーグ３位（４勝３敗）
'97　２部リーグ７位（２勝５敗）
　➡入替戦 VS 東海大
　　２－２で引き分け残留
'98　２部リーグ８位（６敗１分）
　➡入替戦 VS 拓殖大
　　１－１、再試合０－０で残留
'99　２部リーグ１位（５勝１敗１分）
　➡入替戦 VS 慶應義塾大



昨年は３位に躍進し優勝争いも繰り広げた明治大だったが、今年は大混戦を極めた１部リーグで最終戦に敗れ、３年振りの入替戦に出場することとなってしまった。開幕戦で筑波大を３－２と退け、２節の駒澤大戦ではロスタイムで３－３に追いついた。昨年上位校が次々と星を落とす中、波に乗れるかと思われた３節・東学大戦で０－１と零封を喫し、続く慶應大戦も１－３で敗れ、混戦リーグを抜け出すチャンスを自ら手放した。

12失点の多くが、春から懸念されていたセットプレーからのもの。しかし、失点を恐れず、失点以上の得点を目指す戦い方を身上とする明治のサッカーにあって、今リーグの誤算はむしろ期待された攻撃力を発揮できなかったことだろう。１、２節で６得点を奪ったものの、３節からの５試合では５得点。攻撃の起点となれる中心選手の不在が最後まで響いた。

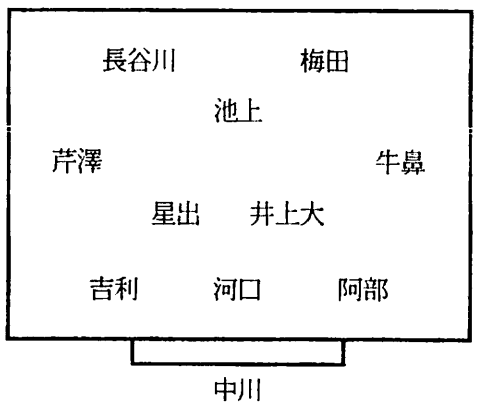
カギは、最終戦の１得点に留まったエース・梅田の得点力。攻撃の組み立ては池上と星出に期待したい。厳しいマークで思い通りの働きができなかった牛鼻、リーグ前のケガで前半戦を棒に振った芹澤の両サイドを絡め、ゴール前でいかに冷静に攻撃できるだろうか。

「優勝するか入替戦に行くか、どちらかのチーム」－リーグ前に吉見監督が予言した言葉は、残念ながら後者が的中してしまった。“守り”に入った戦い方はしない明治のサッカーが、入替戦という一発勝負の試合で吉と出るか凶と出るか。「久々の入替戦。楽しむくらいの気持ちで…」（吉見監督）。優勝を狙った今季。選手たちが気持ちをどう切り替えられたかによって、結果は左右される。

明治大学

＊最近４年間の成績＊

'96　１部リーグ７位（１勝４敗２分）
　➡入替戦 VS 法政大
　　３－２で勝利し残留
'97　１部リーグ６位（２勝４敗１分）
'98　１部リーグ３位（４勝２敗１分）
'99　１部リーグ７位（２勝３敗２分）
　➡入替戦 VS 日体大



明治大学　ＶＳ　日本体育大学

昨年の入替戦で東学大に敗れ、５年間守り続けた１部の座を譲り渡してしまった日体大。今季の戦い方が注目された中、２部リーグでは思い通りのサッカーを展開し、５勝２敗と安定した力を発揮して２位という結果を残した。

開幕戦は、お互いに初めて２部で戦う流経大に開始８分で先制点。一度追いつかれたものの、焦ることなく自分たちの流れを取り戻した。２節で東農大を下して連勝、リーグ後半も下位チームから確実に星を重ねた。優勝のかかった最終戦で、日大によもやの４失点と不覚をとったが、７試合通して波の少ない戦い振りを見せたのではないだろうか。１部では結果に結びつかなかったが、ここ数年目指してきた“つなぐサッカー”を２部で実現した。

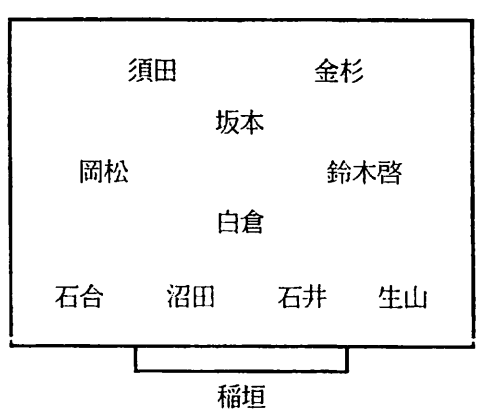
リーグ４年間連続出場を果たした、坂本と白倉がチームの軸。白倉は守備の貢献度も高いが、昨年からコンビを組むセンターバックの石井、沼田も落ち着いたプレーを見せるようになった。ドリブル突破が小気味良い岡松、鈴木のサイド攻撃にはサイドバックの石合、生山も効果的に絡む。ＦＷは須田の成長が著しく、金杉のダイナミックなプレーと合わせて期待が高い。何より、「今年は前を向いてプレーできる」という白倉の言葉に、チーム状態が伺える。

チーム力は徐々に向上しつつも、なかなか勝たせてもらえなかった１部での５年間。４年生でさえ、リーグ戦での勝利は今年初めて味わったことになる。イニシアチブを握りながらのゲーム運びを経験したことが、大きな自信となっただろう。入替戦に臨むにあたり、一番の違いは“勝利の味を知った日体大”であるということだ。

日本体育大学

＊最近４年間の成績＊

'96　１部リーグ８位（３敗４分）
　➡入替戦 VS 亜細亜大
　　０－０、再試合０－０で残留
'97　１部リーグ８位（５敗２分）
　➡入替戦 VS 青学大
　　１－１、再試合４－２で残留
'98　１部リーグ８位（６敗１分）
　➡入替戦 VS 東学大
　　０－１で敗退し２部降格
'99　２部リーグ２位（５勝２敗）
　➡入替戦 VS 明治大



JR東日本カップ 99 第73回関東大学サッカーリーグ戦

順	1部	筑波大	駒澤大	東学大	国士大	順天大	中央大	明治大	慶應大	勝点	勝	負	分	得点	失点	得失差
1	筑波大		3○0	2○0	2△2	2●3	2○1	2●3	3○0	13	4	2	1	16	9	+7
2	駒澤大	0●3		2○1	2○1	1●2	2○0	3△3	2○1	13	4	2	1	12	11	+1
3	東学大	0●2	1●2		1○0	0●3	3○1	1○0	2○1	12	4	3	0	8	9	−1
4	国士大	2△2	1●2	0●1		2○1	2○0	1△1	5○1	11	3	2	2	13	8	+5
5	順天大	3○2	2○1	3○0	1●2		1●2	0●2	0●2	9	3	4	0	10	11	−1
6	中央大	1●2	0●2	1●3	0●2	2○1		2○1	3○2	9	3	4	0	9	13	−4
7	明治大	3○2	3△3	0●1	1△1	2○0	1●2		1●3	8	2	3	2	11	12	−1
8	慶應大	0●3	1●2	1●2	1●5	2○0	2●3	3○1		6	2	5	0	10	16	−6

順	2部	東農大	日体大	早大	青学大	日大	亜大	法政大	流経大	勝点	勝	負	分	得点	失点	得失差
1	東農大		1●2	2△2	3○0	4○2	3○0	4○1	2○0	16	5	1	1	19	7	+12
2	日体大	2○1		0●2	3○1	0●4	2○0	2○0	3○1	15	5	2	0	12	9	+3
3	早大	2△2	2○0		3△3	2○1	1●2	1○0	1△1	12	3	1	3	12	9	+3
4	青学大	0●3	1●3	3△3		2○0	1△1	2○1	5○1	11	3	2	2	14	12	+2
5	日大	2●4	4○0	1●2	0●2		0△0	1○0	3○0	10	3	3	1	11	8	+3
6	亜大	0●3	0●2	2○1	1△1	0△0		0●1	4○0	8	2	3	2	7	8	−1
7	法政大	1●4	0●2	0●1	1●2	0●1	1○0		2△2	4	1	5	1	5	12	−7
8	流経大	0●2	1●3	1△1	1●5	0●3	0●4	2△2		2	0	5	2	5	20	−15

2部一都県入替戦

11／20(日)　西が丘サッカー場

13:00 KICK OFF

流通経済大学　VS　都県リーグ1位

(2部リーグ8位)

15:00 KICK OFF

法政大学　VS　都県リーグ2位

(2部リーグ7位)

◆関東大会◆

Aブロック

	立正大	拓殖大	明海大	城西大
立正大		11／7	0●1	0△0
拓殖大	11／7		0●1	2○0
明海大	1○0	1○0		11／7
城西大	0△0	0●2	11／7	

Bブロック

	宇都宮	東洋大	専修大	東海大
宇都宮		0●3	11／7	1△1
東洋大	3○0		1○0	11／7
専修大	11／7	0●1		0●1
東海大	1△1	11／7	1○0	

※各ブロック1位の大学が、11／14(日) 14:00より、**長柄町自然休養センター**にて決勝戦を行ない、優勝校が1位、準優勝校が2位となり、関東2部リーグとの入替戦に臨みます。

1999. 11. 20号

NEVER…

編集：五味亜矢子
印刷：関東大学サッカー連盟

11／20(土). 2部－都県入替戦

12:00 KICK OFF

流通経済大学
（2部リーグ8位） VS
東海大学
（都県1位）

14:00 KICK OFF

法政大学
（2部リーグ7位） VS
明海大学
（都県2位）

入替決定方法

流経大（2部8位）VS東海大（都県1位）
【流経大の勝ち】
流経大は2部、東海大は神奈川県リーグに残留
【東海大の勝ち】
流経大は2年振りの茨城県リーグ降格
東海大は5年振りの関東2部昇格
【引き分け】再試合（日時、会場とも未定）
【再試合・再度引き分け】それぞれ残留

法政大（2部7位）VS明海大（都県2位）
【法政大の勝ち】
法政大は2部、明海大は千葉県リーグに残留
【明海大の勝ち】
法政大は6年振りの東京都1部降格
明海大は初の関東2部昇格
【引き分け】それぞれ残留

関東リーグでの初挑戦は、結果的には厳しい成績に終わった。５敗２分け、得点５、失点は20を数えた。誤算はリーグ前にあった。ベストなコンビとしてダブルボランチを予定していた大川と飯箸が、ケガにより２人とも戦線離脱。特に大川の穴は、コーチングと精神的な柱という意味からも大きかった。

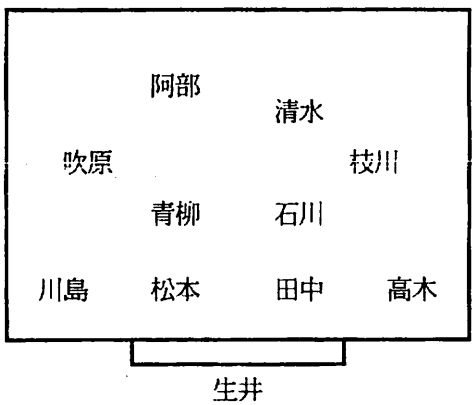
開幕戦は敗れたが、“関東でやれないことはない”と感じさせる部分も見せ、２節では粘って引き分けに持ち込んだものの「精神的な体力がなさすぎる」と中野監督が嘆いたように、３節以降は結果が出ないことで自信をなくしたのか大量失点を喫する試合が続いた。

経験したことのない速いプレッシャーの中で、態勢を安定させるのに時間がかかったことは確かだ。しかし、まさに“挑戦”というリーグを送ったとも言える。昨年までは実力差がある茨城県リーグに属していたこともあり、目標は“失点ゼロ”。今季は、関東リーグに挑むべく積極果敢に攻めにいった。戦えないほどの実力差はない。先制点を奪った試合も守りに入ることはせず、１・２年の若い選手を中心に攻撃の組み立てを図っていた。

攻撃では、中盤の吹原や大島、枝川らがキレのある動きを見せ、フィジカルが強い阿部、身体を張れる清水へパスをつなぐ。唯一の４年生・松本を中心とした守備陣は、リーグ終盤で４バックにして落ち着きが見えてきた。課題は「最後まで集中力を持たせること」（石川主将）。昨年までのように、精神的余裕が持てる時間はほとんどない。とまどいを感じながらも、“７試合を経験してきたこと”は大きな財産である。流経の成長度が見られる試合となるはずだ。

流通経済大学

＊最近４年間の成績＊
'96 茨城県リーグ２位（２勝1敗1分）
北関東代表決定戦で敗退
'97 茨城県リーグ１位（４勝）
北関東代表決定戦勝利
関東大会予選リーグで敗退
'98 茨城県リーグ１位（７勝、中止１）
北関東代表決定戦勝利
関東大会準優勝で都県２位
➡入替戦 VS 専修大
１－０で勝利し関東２部昇格
'99 関東２部リーグ８位（５敗２分）
➡入替戦 VS 東海大



流通経済大学　ＶＳ　東海大学

久々に、東海のユニフォームが西が丘に戻ってくる。けれど、現在の学生たちは既に関東リーグを知らない。往年の名門校だけに復活に対する期待は高いが、選手にとっては“復帰”というより純粋に“昇格”を目指してここまで辿り着いた。特に今年は、神奈川県リーグに降格して初めて優勝を逃した翌年ということで、まさにゼロから再挑戦して這い上がってきたと言えるのではないだろうか。

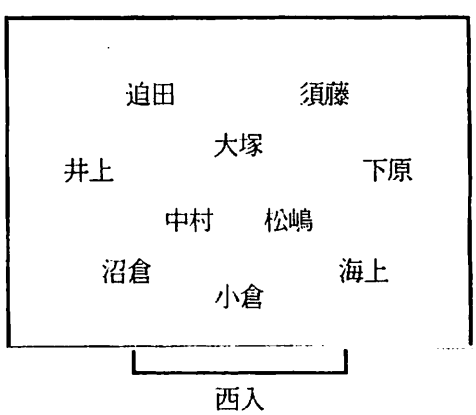
今季、県リーグでは新鋭・桐蔭横浜大と引き分け、結果としては得失点差による優勝だった。しかし、２位との差は７得点。６試合で失点はわずか１と、「春から守備に力を入れて、精神的に崩れないチームをつくってきた」（今川監督）成果が確実に現れた。逆に、攻撃面では今ひとつ決定力に欠ける印象がある。勝った試合は３点差以上つけているものの、引き分け試合は無得点。関東大会の宇都宮大戦はシュート数31対７で１－１と、詰めの甘さが課題のようだ。

それでも、今年の特徴は“スピードあり高さあり”のダイナミックな攻撃だ。２年前の寺田周平（現川崎フロンターレ）のような圧倒的な高さではないが、平均的に高さのある選手がそろっている。関東選抜の井上、高さもある下原の両ウイングバックのスピード、須藤のポストプレーと迫田のテクニックをどう活かせるだろうか。

関東との入替戦は、過去２度とも都県２位での挑戦だった。一昨年は引き分けで昇格ならず。主将の松嶋をはじめ何人かはその試合を経験している。関東大会優勝を勝ち取り、一歩先まで来た。「何もできない相手ではないと思うけど、何もしないで勝てるはずもない」（松嶋主将）。チャレンジャー精神を持った東海がみものである。

東海大学

＊最近４年間の成績＊
'96 神奈川県リーグ１位（５勝１分）
関東大会準優勝で都県２位
➡入替戦 VS 日大
１－２で敗退し神奈川県残留
'97 神奈川県リーグ１位（５勝１分）
関東大会準優勝で都県２位
➡入替戦 VS 東農大
２－２で引き分け神奈川残留
'98 神奈川県リーグ２位（４勝２敗）
'99 神奈川県リーグ１位（５勝１分）
➡入替戦 VS 流経大



予想外の苦戦だった。最終戦まで勝ち星なし。12失点で得点はわずか５。昨年徹底されたはずの守備が崩れ、今年期待されたはずの攻撃力をほとんど発揮できないまま７試合を終えた。

開幕戦、守備陣が落ち着く前に中距離から放たれたゴールを許して０－１のまま敗退、２節は流経大に残り10分で追いつかれて敗戦に近い引き分けを喫した。序盤に結果が出なかったことで、リーグ経験の少ない３バックの組み合わせを様々に変えて臨んだが、応急処置的な感は否めず特効薬は最後まで見つからなかった。「後手後手にまわって形がつくれなかった」－開幕戦後の横谷監督の言葉は、法政の今リーグ全体の印象にも通じる。

入替戦出場が決定した６節の試合後、チームはついに荒治療に出た。入替戦の結果は来季に関わること。それならば、入替戦は来季のチームで戦うべきだ…チーム全員が「心を鬼にして」（宮澤主将）出した結論が、“最終節と入替戦を３年生以下で戦う”こと。そして最終節、ついに初勝利をもぎ取る。決勝点を叩き出したＦＷ中谷の表情は、“４年生のためにも勝たなければいけない”と語っていた。宮澤は入替戦までの３週間、練習の中で「できる限りのアドバイスをしていきたい」と言った。スタッフ、４年生、下級生…それぞれが責任を背負って入替戦に臨む。最終節に初出場した選手も多い。下級生がこれをチャンスととらえ、新たな活気も出てきたという。攻撃面の自信を取り戻せているかがカギ。中谷のスピード、藤原・佐々木のパス、中村の飛び出し、柳沢のオーバーラップ等が注目だ。原点に戻るために選択した道。すでに来年へのスタートである。

法政大学

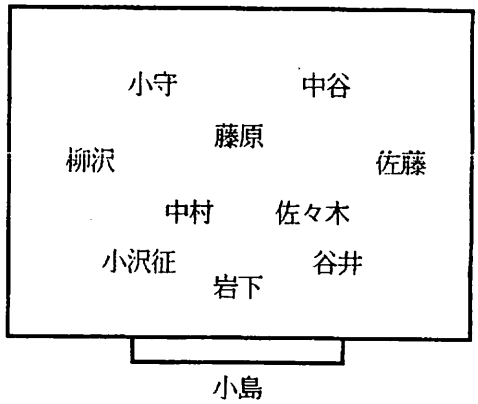
＊最近４年間の成績＊

'96 ２部リーグ２位（４勝２敗１分）
➡入替戦 VS 明治大
２－３で敗退し２部残留

'97 ２部リーグ４位（３勝２敗２分）

'98 ２部リーグ３位（３勝２敗２分）

'99 ２部リーグ７位（１勝５敗１分）
➡入替戦 VS 明海大



法政大学　ＶＳ　明海大学

ここ数年、明海大と国際武道大、中央学院大との三つ巴状態となっている千葉県リーグを初めて制し、関東大会では昨年優勝の拓大などを下して一気に関東リーグとの入替戦まで駒を進めてきた。今年は大学創立10周年。記念の年に、記録に残る快挙を成し遂げることができるだろうか。

２年前、柏レイソルなどに在籍した梶野智幸氏を監督に迎え、チーム強化を図ってきた。習志野高校や市立船橋高校など、千葉県下の高校出身選手が目立つ。全国大会出場だけでなく、中には全国優勝の経験者もおり、サッカーのレベルの高い高校で培われてきたのか、個々の技術は高いものがある。

今季、千葉県リーグでは全勝優勝を飾った。７試合で計36得点と、１試合平均5.1点の得点力が目を引く。無失点試合が少ないのが気にはなるが、関東大会では拓大、立正の東京勢を零封。最小得点でも勝てることを実証してきた。浅いディフェンスラインを敷く守備の中心は、主将の高橋と３年の小野木。中盤ではダブルボランチの２人が相手の攻撃を止めていく。攻撃は、森廣と市川を軸にＦＷでポストプレー中心の四條、運動量のある吉住が絡んで組み立てていく。スピードはそれほどないが、とにかく中盤からつないで前線へのビルドアップはそつがない。市川と竹村のＦＫも注目だ。

すべて初挑戦の今年。リーグ戦からの連勝が途切れ、関東大会予選リーグ最終戦の引き分けと決勝の敗戦で気勢が削がれた感がなくもない。しかし、「こんなチャンスはなかなかない。まずは経験することが大事」（梶野監督）。怖いもの知らずの心境で臨めるかどうか。

明海大学

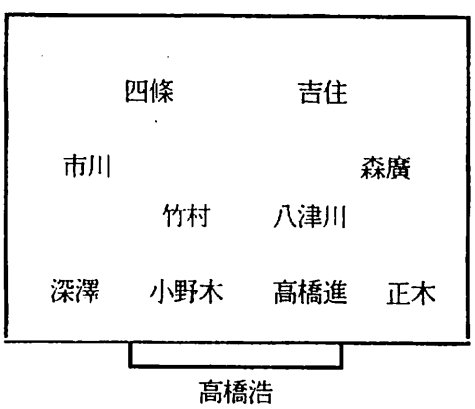
＊最近４年間の成績＊

'96 千葉県リーグ２位（５勝1敗1分）
※勝数は未確認

'97 千葉県リーグ３位（５勝２敗）

'98 千葉県リーグ２位（５勝1敗1分）

'99 千葉県リーグ１位（７勝）
関東大会準優勝で都県２位
➡入替戦 VS 法政大



各地区の秋季リーグ戦結果

JR東日本カップ 99 第73回関東大学サッカーリーグ戦

順	1部	筑波大	駒澤大	東学大	国士大	順天大	中央大	明治大	慶應大	勝点	勝	負	分	得点	失点	得失点差
1	筑波大		3○0	2○0	2△2	2●3	2○1	2●3	3○0	13	4	2	1	16	9	+7
2	駒澤大	0●3		2○1	2○1	1●2	2○0	3△3	2○1	12	4	2	1	12	11	+1
3	東学大	0●2	1●2		1○0	0●3	3○1	1○0	2○1	12	4	3	0	8	9	−1
4	国士大	2△2	1●2	0●1		2○1	2○0	1△1	5○1	11	3	2	2	13	8	+5
5	順天大	3○2	2○1	3○0	1●2		1●2	0●2	0●2	9	3	4	0	10	11	−1
6	中央大	1●2	0●2	1●3	0●2	2○1		2○1	3○2	9	3	4	0	9	13	−4
7	明治大	3○2	3△3	0●1	1△1	2○0	1●2		1●3	8	2	3	2	11	12	−1
8	慶應大	0●3	1●2	1●2	1●5	2○0	2●3	3○1		6	2	5	0	10	16	−6

順	2部	東農大	日体大	早大	青学大	日大	亜大	法政大	流経大	勝点	勝	負	分	得点	失点	得失点差
1	東農大		1●2	2△2	3○0	4○2	3○0	4○1	2○0	16	5	1	1	19	7	+12
2	日体大	2○1		0●2	3○1	0●4	2○0	2○0	3○1	15	5	2	0	12	9	+3
3	早大	2△2	2○0		3△3	2○1	1●2	1○0	1△1	12	3	1	3	12	9	+3
4	青学大	0●3	1●3	3△3		2○0	1△1	2○1	5○1	11	3	2	2	14	12	+2
5	日大	2●4	4○0	1●2	0●2		0△0	1○0	3○0	10	3	3	1	11	8	+3
6	亜大	0●3	0●2	2○1	1△1	0△0		0●1	4○0	8	2	3	2	7	8	−1
7	法政大	1●4	0●2	0●1	1●2	0●1	1○0		2△2	4	1	5	1	5	12	−7
8	流経大	0●2	1●3	1△1	1●5	0●3	0●4	2△2		2	0	5	2	5	20	−15

'99 神奈川県大学サッカーリーグ秋季リーグ戦

順		東海大	桐蔭大	神大	関学大	横国大	防衛大	湘南大	勝点	勝	負	分	得点	失点	得失点差
1	東海大学		0△0	3○0	5○0	4○1	7○0	3○0	16	5	0	1	22	1	+21
2	桐蔭横浜大学	0△0		2○0	2○0	4○0	5○1	2○0	16	5	0	1	15	1	+14
3	神奈川大学	0●3	0●2		3○2	2○0	2○1	6○2	12	4	2	0	13	10	+3
4	関東学院大学	0●5	0●2	2●3		1○0	1○0	7○1	9	3	2	0	11	11	±0
5	横浜国立大学	1●4	0●4	0●2	0●1		0●1	1○0	3	1	5	0	2	12	−10
6	防衛大学	0●7	1●5	1●2	0●1	1○0		0●1	3	1	5	0	3	16	−13
7	湘南工科大学	0●3	0●2	2●6	1●7	0●1	1○0		3	1	5	0	4	19	−15

'99千葉県大学サッカーリーグ戦

順		明海大	国武大	帝経人	千葉人	東邦人	千工大	敬愛人	神田外語人	勝点	勝	負	分	得点	失点	得失点差
1	明海大学		4○1	5○2	2○1	9○0	3○0	4○3	9○1	21	7	0	0	36	8	+28
2	国際武道大学	1●4		1○0	1○0	5○0	5○0	7○0	7○0	18	6	1	0	27	4	+23
3	中央学院大学	2●5	0●1		2○1	5○1	1○0	4○1	1△1	13	4	2	1	15	10	+5
4	千葉大学	1●2	0●1	1●2		4○1	0●2	2○1	2○0	9	3	4	0	10	9	+1
5	東京理科大学	0●9	0●5	1●5	1●4		1○0	2○1	○	9	3	4	0			
6	千葉工業大学	0●3	0●5	0●1	2○0	0●1		1●3	5○2	6	2	5	0	8	15	−7
7	敬愛大学	3●4	0●7	1●4	1●2	1●2	3○1		5○1	6	2	5	0	14	21	−7
8	神田外語大学	1●9	0●7	1△1	0●2	●	2●5	1●5		1	0	6	1			

※空欄は不明、6・7位の正確な順位は未確認

第32回関東大学サッカー大会

Aブロック

順		明海大	拓殖大	立正大	城西大	勝点	勝	負	分	得点	失点	得失点差
1	明海大学		1○0	1○0	4△4	7	2	0	1	6	4	+2
2	拓殖大学	0●1		0△0	2○0	4	1	1	1	2	1	+1
3	立正大学	0●1	0△0		0△0	2	0	1	2	0	1	−1
4	城西大学	4△4	0●2	0△0		2	0	1	2	4	6	−2

Bブロック

順		東海大	東洋大	専修大	宇都宮	勝点	勝	負	分	得点	失点	得失点差
1	東海大学		4○1	1○0	1△1	7	2	0	1	6	2	+4
2	東洋大学	1●4		1○0	3○0	6	2	1	0	5	4	+1
3	専修大学	0●1	0●1		3○0	3	1	2	0	3	2	+1
4	宇都宮大	1△1	0●3	0●3		1	0	2	1	1	7	−6

決勝戦

東海大　2－1　明海大
(東海大は都県1位、明海大は2位)